

委員による二次評価まとめ（令和6年度事業の評価）

令和7年(2025年)8月25日
横須賀美術館運営評価委員会
資料2

I 美術を通じた交流を促進する

【集客・交流推進】

- ①広く認知され、多くの人にとて横須賀市を訪れる契機となる。

〔広報〕

達成目標	・年間観覧者数 239,400人以上	(前年度)	1次評価	2次評価
		S	S	
小林委員長	S			
菊池委員	S			
柏木委員	S	・来館者もH19年度以降で最大となり、地域のにぎわいの拠点となっています。		
関口委員	A			
慶長委員	S	・大変多くの来場者数があり、横須賀市を訪れる契機となっている。		
倉田委員	S			
前波委員	S	・年々着々と観覧者数が増えており、美術館の継続的な創意工夫の賜物だと思います。 ・見込みに達していない展示につきましても、他市から「鑑賞したい」と友人が足を運んできることもあり、展示内容の魅力があつたことと感じております。		
実施目標	・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。 ・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。 ・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。 ・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。 ・美術館のイメージアップにつながるようなTV放送、雑誌取材、プロモーションビデオ撮影などの商業撮影、取材を受入れる。	(前年度)	1次評価	2次評価
		S	S	
小林委員長	S			
菊池委員	S	・外国人観覧者数の増加は、ジブリ展の影響か?		
柏木委員	S	・展覧会と関連づけたコンサートの取り組みや「アジサイ割」などユニークな試みや外国人観覧者数の大幅な増加を評価します。		
関口委員	S			
慶長委員	S			
倉田委員	S			
前波委員	S			

②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。			〔市民協働〕		
達成目標	・市民ボランティアの活動者数および協働事業への参加者数 延べ 1,700人		(前年度)	1次評価	2次評価
			C	A	
小林委員長	A				
菊池委員	A	・「目標に対して106.3%の達成率」の根拠を教えてください。			
柏木委員	A				
関口委員	A				
慶長委員	A				
倉田委員	A				
前波委員	A				
実施目標	・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。 ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。		(前年度)	1次評価	2次評価
			A	S	
小林委員長	S				
菊池委員	S	・ボランティアの方々のモチベーションが高い実態が感じられる。			
柏木委員	S	・コロナ前の実績を上回っており、活動が再び定着し活性化している様子がうかがえます。			
関口委員	S				
慶長委員	S				
倉田委員	S				
前波委員	S	・お客様にとって聞きやすいよう、ギャラリートークの大幅にお客様が増えたとのことで、皆様の試行錯誤、創意工夫が素晴らしいと思いました。			

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

【社会教育】

③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

〔展覧会・教育普及〕

達成目標	・企画展の満足度 80%以上	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A	・すべての企画展で目標数値を上回り、全体で目標を10%以上上回っておりS評価に近いです。		
関口委員	A			
慶長委員	A			
倉田委員	A			
前波委員	A			
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回(児童生徒造形作品展を含む)の企画展を開催する。 ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。 ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。 ・美術への興味や関心が深まる美術関連の資料(図書、カタログ等)を収集し、図書室で整理・保管し利用者の閲覧に供する。 ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。 	(前年度)	1次評価	2次評価
			A	A
小林委員長	A			
菊池委員	S	・ジブリ展やダリ展など、美術館の認知度、格調を向上させたことは、今後の運営に大いに寄与する。		
柏木委員	A	・バラエティに富む展覧会を通常年度より多く取り組み、新収蔵品の速やかな紹介にも積極的に取り組んでいます。 ・平易で短い「解説」への取り組みはいずれの館も課題としています。		
関口委員	A			
慶長委員	A			
倉田委員	A			
前波委員	A			

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。			〔若年層への教育普及〕		
達成目標	・中学生以下の年間観覧者数40,000人		(前年度)	1次評価	2次評価
小林委員長	D	・学校教育における美術館を介した教育の意義を考慮し、横須賀市内の小中学校との連携強化が求められるのではないかでしょうか。		B	D
菊池委員	C	・ジブリ展の影響はある意味不可抗力の面もあり、達成結果についてはやむを得ない。努力を怠ったわけではないのでC。			
柏木委員	C	・設定目標が高すぎたと思います。			
関口委員	D				
慶長委員	D				
倉田委員	B	・夏休み期間中のゴーリー展にチャレンジ感は否めないものの、少子化が進むなか、子どもたちのための工夫を凝らした魅力的な企画により、年々来館者数が増えている点は非常に素晴らしい、目標値が高すぎただけではないかと感じます。			
前波委員	D	・「エドワードゴーリーが大人向けの展覧会であった」との記載がありましたが、その際に子供も楽しめる関連ワークショップとして「パラパラワークショップ」を開催されており、子供が展示を鑑賞するきっかけづくりになったことだと思います。			
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。 ・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。 ・美術館を活用した鑑賞教育がいっそう充実するよう、先生のための美術館活用講座をはじめ、教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。 		(前年度)	1次評価	2次評価
小林委員長	A	A	A		
菊池委員	A				
柏木委員	A	・児童生徒造形作品展では予測入館者数を大きく上回り、保育園や小学校の鑑賞会、職場体験も着実に実施し定着しています。			
関口委員	A				
慶長委員	A				
倉田委員	A				
前波委員	A				

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

〔収集管理〕

達成目標	・環境調査の実施(年2回) ・美術品評価委員会の開催(年1回)	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A			
関口委員	A			
慶長委員	A			
倉田委員	A			
前波委員	A			
実施目標	・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。 ・作品の保管、展示について適正な環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。 ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。 ・所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A	・館の活動実績が作品収集に結実している点、また寄託作品を寄贈に結び付けた点を評価します。		
関口委員	A			
慶長委員	A			
倉田委員	A			
前波委員	A			

Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

【運営・管理】

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

[メンテナンス・来館者サービス]

達成目標	・館内アメニティ満足度 90%以上 ・スタッフ対応の満足度 80%以上	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A	・展示室内の椅子の配置など、休憩する場所については検証されるとよいと思います。		
関口委員	A			
慶長委員	A			
倉田委員	A			
前波委員	A			
実施目標	・建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・運営事業者と協力して、附帯施設(レストラン及びミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A			
関口委員	A			
慶長委員	A			
倉田委員	A			
前波委員	A			

⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。			[バリアフリー]		
達成目標	・福祉関連事業への参加者数延べ250人以上		(前年度)	1次評価	2次評価
			S	A	
小林委員長	A				
菊池委員	S	・限られたスタッフ人数の中で、目標比115%は達成目標の定量評価としてはS。			
柏木委員	A				
関口委員	A				
慶長委員	A				
倉田委員	A				
前波委員	A	・託児の利用も年々増えてきているようですね。継続して実施されていることで多くの方に認知していただけるようになってきたのかと思います。			
実施目標	・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう(環境づくりの)ための各種事業を行う。 ・必要に応じて、触察図など鑑賞補助ツールを用いながら、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。 ・展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する。		(前年度)	1次評価	2次評価
			A	A	
小林委員長	A				
菊池委員	S	・参加者の特性に配慮し、ニーズを把握しようとする姿勢が、興味や満足度を引き上げている。			
柏木委員	A	・託児サービスについては、あまり需要がない印象を持ちました。			
関口委員	A				
慶長委員	A				
倉田委員	A				
前波委員	A	・「美術館が設定した募集日以外にグループの希望日での利用を募る」と記載がありましたが、鑑賞者から希望日を聞くことでより利用しやすいサービスになると思いました。			

⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。 [経営的視点]			
達成目標	・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、過去2年間の平均値を目安とする。	(前年度)	1次評価
小林委員長	A	A	
菊池委員	S	・質を担保しながら、来場者が激増している中で、経費削減の努力が顕著に表れている。	
柏木委員	A		
関口委員	A		
慶長委員	A		
倉田委員	A		
前波委員	A		
実施目標	・職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。	(前年度)	1次評価
小林委員長	A	A	
菊池委員	S	・ペーパレス化などスタッフのコスト意識が、徹底されている。長年の意識づけが定着していることがうかがえる。	
柏木委員	A		
関口委員	A		
慶長委員	A		
倉田委員	A		
前波委員	A		

・令和6年度 横須賀美術館運営評価の方法について		
小林委員長	△	・そろそろ新しい項目を加えての検討も必要ではないのかと考え、その意味では△と言うことになるかもしれません。
菊池委員	○	
柏木委員	○	
関口委員	○	
慶長委員	○	
倉田委員	○	
前波委員	○	・いつも資料の事前送付や詳細な説明など、丁寧な運営で、安心して参加することができました。ありがとうございました。